

陸平通信

OKADAIRA

2019年5月1日発行

編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359

美浦村文化財センター（陸平研究所）

☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471

Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 99号

村指定！ 木原城城主・近藤利勝像



絹本著色近藤利勝像

大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵

大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵

大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵

大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵

大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵

大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵
大須賀村振興会蔵

背景 楯縫神社棟札・大須賀村塚本家文書

木原城の城主近藤利勝を描いた肖像画「絹本著色近藤利勝像」が発見され、新たに村指定有形文化財に加えられました。戦国時代の巨城・木原城はその城主が近藤氏であることは古文書資料などから知られていましたが、その詳細はよくわかっていませんでした。今回、近藤利勝像が発見されその容姿が明らかになりました。肖像画そのものについての調査研究はまだ始まったばかりです。近藤利勝像は木原城研究の解明につながる重要な資料のひとつとなることが期待されます。

文化財センターでは近藤利勝像と昨年12月に県指定となった蔵骨器（信太入子ノ台遺跡出土）、そして関連する文化財として虎の刺繍（県指定）と狛犬（村指定）も展示します。講演会も開催しますのでどうぞご来館ください！

◇展示期間 5月10日(金)～26日(日)

◇場 所 文化財センター

◇講演会

① 5月18日(土) 13:00～

「木原城城主近藤氏について」

平田満男氏（美浦村文化財保護審議委員）

② 5月19日(日) 13:30～

「絹本著色近藤利勝像について」

瀬谷貴之氏（神奈川県立金沢文庫主任学芸員）

※5/8(水)、5/9(木)、5/28(火)、5/29(水)は展示替えのため展示室は休室となります。

◇問 合 せ 文化財センター

木原城主の遺品を秘めて今に伝うる永巖寺（日和吟社俚謡集より）



▲束ねたカヤを手渡し。



▲竹を割って縄で連結。これは屋根にかぶせます。



▲おっ、その調子だ、いいぞ。指導を受けてハサミでカヤを揃えます。少し緊張…。



▲煙出し部分をハサミで切りそろえます。この微妙な角度が重要なんだよ。



▲トントン。カヤを揃えたり隙間なく積んでいく大事な作業。



▲住居の下の方からカヤにハサミを入れていきます。



▲竪穴住居の扉を製作中。

竪穴住居が完成！～竪穴住居復元プロジェクト～



▲完成した竪穴住居

昨年4月からスタートした竪穴住居復元プロジェクト。3月に待望の住居が完成しました。年明けの1月よりカヤ葺き作業が始まり、順調に進んで来たかと思いきや途中で天気が不安定となって雨、そして2月には雪が降り一時作業が中断してしまう事態になりました。ようやく天気も安定して無事3月10日に住居の完成をみることができました。これからは永く親しんでもらえるように復元竪穴住居の維持管理をしっかりとこなしていきます。

竪穴住居復元プロジェクトに参加された皆さん、そして暖かく見守って下さった方々ありがとうございました。



▲トントンとカヤを揃えます。大事な作業です。



▲稲わらでこしらえて屋根に取り付けます。形よく作るの難しいなあ…。



▲外側から竹の針で縄を内側に通します。



▲内側で受け取った縄を木に結びます。声をかけあい息を合わせるのがポイント！



▲たくさんのカヤ。なんと軽トラに山盛り3台分！みんなで作業するとはかどるね。



▲出入り口を作ってます。



▲竹を足場にして高い位置での作業。屋根を形作っています。

「美浦かるた」で知るみほの文化財

今回の札は

「は」

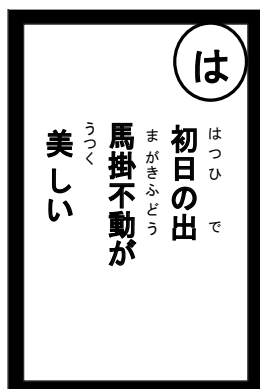
初日の出で馬掛不動が美しい

霞ヶ浦に面した馬掛地区には、見晴らしのよい高台に不動堂が祭祀されています。棟札が残されていることから、いつ建てられ、いつ現在の地に移転されたかを知ることができません。創建は江戸時代で、宝永3（1706）年6月に建設の計画が始まり翌年の宝永4（1707）年1月に新始、4月に造立が終わり、携わった大工の名前も記され、山王村の伊平衛や大谷村の重兵衛などの名前がみられます。棟札は表がツルツル、裏は荒い削り跡がはつきりと残されて寺社建築を手掛ける宮大工が不動堂の建設に関わっていたことがわかります。明治45（1912）年、成就院内に移転し再建されましたが、霞ヶ浦の増水

により没してしまい、昭和2（1927）年に現在の高台に移転し再建されました。馬掛不動尊のある地は、扇ヶ崎とも呼ばれ、風光明媚、明治期には霞ヶ浦八景（筑波の暮雪、高須の夜雨、藍見崎の晚鐘、天王崎の夕照、浮島の晴嵐、箕の輪田の落雁、弁天の秋の月、牛堀の帰帆）を一望に望むことができると伝えられています。子宝・子育てに御利益があると崇敬され多くの参詣者でにぎわっていたこともあったようです。古代には信太郡島津郷に属し、大化2（646）年の詔で常陸の駅道が創設された時、馬掛の天神平に駅家が置かれたと伝えられています。

不動堂までの階段の脇にはかつての海底の痕跡をしめす

貝化石層をみることもできます。来年は霞ヶ浦を一望できる馬掛不動からの初日の出、ぜひご覧になつてはいかがでしょうか。しよつ。



美浦かるたは美浦村女性行政推進協議会が作成した美浦村の魅力を紹介しているかるたです。

常陸大宮市泉坂下遺跡と交流

いずみさかした



▲陸平をヨイショする会の活動を紹介



▲交流の様子

さる4月6日(土)、遺跡に関わるボランティア活動の視察を目的に常陸大宮市の泉坂下遺跡をまもる会約40名が陸平貝塚を訪れました。常陸大宮市にある弥生時代の「泉坂下遺跡」は再葬墓という埋葬形態が特徴の遺跡で、平成29年に国史跡と同時に、出土した弥生土器も国の重要文化財になるというダブル国指定となりました。当日は陸平貝塚の見学や土笛作り体験、そして陸平をヨイショする会の皆さんが陸平でのボランティア活動を紹介し、交流を深めました。陸平をヨイショする会は、遺跡にかかわるボランティア団体として長く活動をしているため、近年、他の地域からボランティア活動の様子を知りたいと陸平貝塚を訪れる団体が多く、新たな交流の機会が増えています。

5/3は、「いき
いき茨城ゆめ国
体」の採火イベ
ントもあるよ！

縄文体験の日

みんなきてネ



リクル&タイラ

5月3日(金)～4日(土)

午前9時30分～午後4時

※体験メニューにより最終受付時間が異なります。



場所：美浦村文化財センター

<体験メニュー>

- * 縄文土器作り
 - * ミニ土器作り
 - * 土笛作り
 - * 縄文クッキー作り
 - * まが玉作り
 - * どんぐり時計・カレンダー
 - * 絵てがみ
 - * 俚謡
 - * 縄文服を着てみよう ほか
- 陸平貝塚を散策したり、里山交流館でゆっくり休憩して
春の陸平を満喫しよう

いきいき茨城ゆめ国体

「美浦村の炬火」採火イベント開催！

国体の総合開会式では県内全市町村から灯された炬火を集めるイベントが行われます。美浦村からは5月3日に
行われる火起こし体験にて採火し、「美浦村の炬火」として
参加する予定です。国体の炬火をみんなで灯しましょう！

～採火は5月3日(金) 午前11時20分頃から～

予約なしでさまざまな体験ができます

陸平貝塚公園内の立入禁止 区域について(注意)



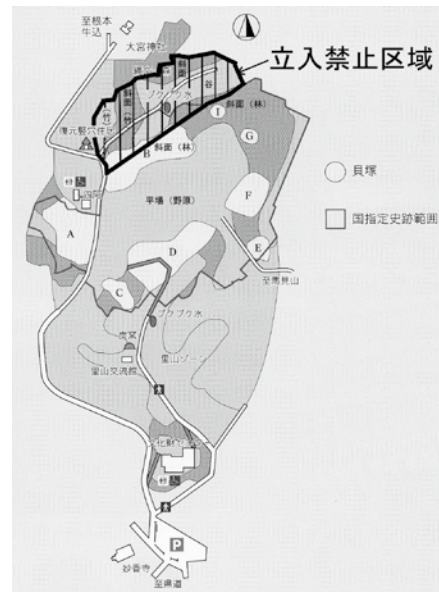
陸平貝塚公園内でイノシシの足跡等が確認されたため、公園内の一部にイノシシ捕獲のための「わな」を設置しました。

地図に示した斜線範囲内の立入禁止区域には、大変危険ですので立ち入らないようお願いいたします。

わなは有害鳥獣捕獲隊により外から見えないよう地中に複数設置してあります。

特に、やまいも掘りの方、タケノコや野草採りの方、ポケモンGOをされている方、ペット連れの方(放し飼い厳禁)はご注意ください。

なお、陸平貝塚公園以外の安中台地の山林にも、わなを仕掛けている箇所がありますので(注意看板あり)ご注意ください。



陸平貝塚発掘 140 年！

今年、2019年は佐々木忠二郎と飯島魁が陸平貝塚の発掘調査をおこなった明治12(1879)年からちょうど140年目になります。今後、陸平貝塚に関する展示や講演なども予定していますのでお楽しみに！



第26回 梅朝基礎落語

落語で笑って楽しいひとときを

- ◆日時 6月2日(日)
- ◆時間 午後1時30分から
- ◆会場 文化財センター
- ◆出演 好文亭梅朝さん

※演目はお楽しみ！



当日、直接会場にお越しください。

陸平貝塚公園までの交通アクセス

